



## 第1回学校運営協議会を開催しました

5/20(金)に、第1回目の学校運営協議会を開催しました。

15名の委員が任命され、任命書が交付されました。学校運営協議会委員の任期は1年間で、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動に意見を述べたりして、一定の権限と責任をもって学校運営に参画します。

今年度の学校運営協議会委員は、下記のとおりです。《任期：令和4年4月1日～令和5年3月31日》



会長・地域代表  
梶山 公則



副会長・保護者代表  
田村 大治郎



地域代表  
山根 満広



地域代表  
藤村 良一



地域代表  
岩藤 睦子



地域代表  
上田 穰



長門市中央公民館長  
宇野 孝一



みのり保育園長  
磯奥 和枝



保護者代表  
山本 真弓



保護者・おたすけ隊代表  
上手 一行



校長  
矢野 裕之



教頭  
倉光 範江



教務主任  
伊藤 龍太



生徒指導主任  
吉田 宏



保健主任  
板村 幸子

協議会では、令和4年度の教育方針や取組についての説明があり、承認されました。その後、3つのプロジェクト(わくわく学び・いきいきハート・にこにこパワフル)に分かれて、今年度の具体的な取組について協議しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、全教職員の参加は控え、規模の小さい協議会となりましたが、協議したことを教職員や保護者、地域と共有し、今後の学校運営につなげていきたいと思っております。

### わくわく学びプロジェクト

○今年度も、夏休みに図書室を開放する。

○地域人材を生かした豊かな学びの中で、小中一貫・家庭・地域連携カリキュラムの活用をめざす。

### いきいきハートプロジェクト

○今年度も、あいさつのよかった子どもたちに配付する缶バッジを製成する。

○安全マップに関して、ICTを活用し、危険な場所を撮影した画像を示しながら、分かりやすく指導する。

### にこにこパワフルプロジェクト

○地域の方と、毎月第2火曜日に外庭の掃除を行う。

○低学年用の砂場設置に向けて、おたすけ隊の皆さんと相談しながら計画を進める。

## あいさつ プラス1

5月の第1回学校運営協議会で、長門市教委の飯田指導主事さんから、本校のチャレンジ目標は、数年前の児童の発案で決まったものであるとのお話をうかがいました。大事にしていきたい三つの目標です。

先月に続き、三つのチャレンジ目標の一つ、あいさつの話です。

今、深川小学校では、「あいさつ プラス1」という取組を行っています。これは、

**「おはようございます。今日は暑いですね。」**

というように、あいさつの後に、もう一言添えよう（プラス1）というものです。天候に関する内容をプラスすることが多いのですが、繰り返す内に、「今日はプールが楽しみです。」など、子どもたちがいろいろな「プラス1」をするようになってきました。

最近、すてきだなと思ったのが、ある児童の右のような言葉です。この子の内面の豊かさが伝わってきて、とてもすがすがしい気持ちで朝のスタートを切ることができました。

アジサイがきれいな季節になりましたね。

地域でも、子ども達がこのような「あいさつプラス1」をできるようになることが理想なのですが、「学校から一步出ると、あいさつをしなくなる」というのは、どこの学校においてもよく言われることです。

このことに関して、演出家の鴻上尚史さんの著書を読んだ際に、「なるほど」と思ったことがあります。一部引用してご紹介します。

### 外国には「世間」はない

驚くことに、ほとんどの外国には「世間」はありません。「世間」はとても日本的なのです。

欧米をはじめとしたほとんどの外国は「社会」しかありません。

つまり、自分が知っている人達と知らない人達を分けないのです。

エレベーターに乗ると、日本人は、全員が沈黙したまま。決して目を合わせず、じっとドアの上に表示された階数の数字を見つめています。

僕もあなたもそうします。

お互いが他人で、「社会」に住む人達だから、会話できないのです。会話するつもりもないと言ってもいいし、エレベーターの中でどんなふうに話しかけたらいいか分からないと言ってもいいでしょう。

欧米では、エレベーターの中で、必ず、目礼か会釈か会話が始まります。

知らない者同士が会話することが当たり前前の「社会」に生きているからです。エレベーターのような狭い空間で、とても近いところに人が立っているのに、黙っている方が不自然に感じるので。

鴻上尚史 『空気』を読んでも従わない 息苦しさからラクになる 岩波ジュニア新書 2019年  
↑ 中高生向けに書かれた、とても読みやすい本です。

深川の小中高生がよくあいさつをするのは、子どもたちにとって、地域が「社会」よりも「世間」に近いからなのではないでしょうか。これは、かけがえのない深川のよさに違いありません。